

## 英国における絵本の歴史

高橋 裕子

(昭和55年9月30日受理)

### A History of Picture Books in England

Yūko TAKAHASHI

(Received September 30, 1980)

#### はじめに

子どもの本の歴史的な発達の過程をふり返ってみるとそれぞれの時代の子どもの社会的にどういふ存在として扱われていたか、言いかえれば、その時代の児童観を如実に反映していると考えることができる。本研究において考察する絵本の歴史においても、この点に関して例外ではない。

イギリスに、純粋に子どもの読者を対象にした文学的作品が出版されたのは、18世紀後半のことである。それ以前には、子どものための本といえ、しつけや教育を目的としたものに限られていたのに対し、Amusementを目的とする作品が出版され、子どもたちに熱狂的に歓迎されるようになったことは、現代に至る子どもの本の歴史の出発点とみなされる理由である。

しかし、現代なお子どもの本として生き続けている作品のいくつかは、もっと前の時代、そもそも本の出版がはじめられた15世紀までさかのぼることができる。これらの本は、はじめ大人のものとして出版されたものであったが、単純明快なストーリーと挿絵は、子どもたちにも喜んで受け入れられるものであった。

この、いはば「絵本前史」と呼ぶべき時代においては、作家、イラストレーターばかりではなく、実際に出版にかかわった人たちの功績が大きい。特に絵本のジャンルにおいては、これが印刷物として出版されてはじめて成立する芸術であるために、印刷技術の進歩や出版形態の発達と軌を一にして発達してきたからである。

絵本の源流をたどる時、まさに出版業の源流に到達す

るという事実は、興味深いことである。

本研究では、「児童文学の王国」<sup>1)</sup>と呼ばれるイギリスにおける絵本の発達をたどる第一歩として、15世紀にイギリス印刷技術が導入された時期から、18世紀後半の純粋に子どもの読者を対象とした本が出版されるまでの時期をとりあげ、絵本の発達に大きく貢献した出版人や印刷物を考察する。

#### [1] William Caxton (1422 or 1421~1491)

現代絵本の源流をたどれば、イギリスの絵本にゆきあたる。15世紀のイギリスで、はじめて出版業を設立したWilliam Caxtonの仕事の中に、すでに現在まで生き残っているような児童文学の宝が存在していたということは興味深い事実である。

##### a. 生涯と作品

Caxtonは1421年か、1422年にWeeldのKenteで生まれた。彼は、最初、印刷業とはほど遠い毛織物商のところに丁稚奉公にやられたが、その織物商は、後にロンドン市長にまでなった成功者であった。その後Caxtonは1人立ちして、ベルギーのBrugesというところで商売をはじめた。当時、イギリスとLow Countryと呼ばれる、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグなどの国々との間には、密接な交流があつて、彼はBrugesに、小さなイギリスとよばれるほどの力を持った“Marchant Adventure”というギルドを造った。Brugesの上流階級には、エドワード4世の姉であるマーガレットが嫁いでおり、Caxtonは、彼女の図書館で、フランダース地方の色々なromance(物語)に出合った。そのような写本された書物に接する機会は、力のある商人であったCaxtonにとっても非常にわずかしかなかった。

ちょうどそのころ、ドイツで発明された活版印刷技術がフランスに入ってきた。Caxton は母国の人々に、これらの romance に描かれている、ヨーロッパの高い騎士道の文化を紹介したいと思い、印刷技術に興味を持ち、Cologne (フランス) で学んだ。

1476年、Caxton はイギリスにもどり、イングランド王であったエドワードの後援を得て、次の年、Abbeyの近くの Westminster に“Red Pale”の看板を掲げてイギリスで最初の印刷所を開設した。

Caxton の出版した物語は、ほとんどが大人のための出版物であったが、それらに描かれている木版の挿絵やストーリーは子どもをひきつけ、喜ばせるのに十分な魅力を持っていた。

彼は子どもを対象とした本もいくつか出版しているが、それは、その時代の教育観、子ども観を色濃く反映してしつけや行儀作法が中心のものであったり、勉強の本であったりした。そういった教訓色の濃いものは、親達には喜んで迎えられ、出版数は多かった。しかし、このような本は、歴史の中に埋もれてしまい、大人向きに出された、アーサー王物語 (*Le Morte Darthur* 1485) やイソップ物語 (*Aesop's Fables* 1484)、狐のレナード (*Reynard the Fox* 1481) などの本が子ども向きの本として残存している。

b. Caxton の主要作品 (子ども向けのものを中心として)

- 1475年 Recuyell of the Historyes of Troye.
- 1477年 Booke of Curtesye or Lytyll John.
- 1477年 Stans Puer ad Mensam. (By Lydgate)
- 1481年 Reynard the Fox.
- 1483年 The Book callid Caton.
- 1484年 Aespo's Fables.
- 1485年 Le Morte Darthur. (By Sir Thomas Malory)
- 1487年 The Book of Good Maners.

前述のように、Caxton の仕事の中で *Reynard the Fox*, *Aesop's Fables*, *Le Morte Darthur*, の3冊は子どもの本の中で生き続け、彼の名前を後世に残すもととなっている。

Reynard the Fox

*Reynard the Fox* は、フランダースの詩人の William によって書かれた物語を Caxton 自身が翻訳したもので、その内容には多分に風刺が盛り込まれており、小さな子どもには理解しにくい部分もあるが、登場する動物達は

上手に擬人化されていて、人間のように面白く話したり笑ったりしている。また、Reynard 狐はその機知で他の動物達をうち負かしてしまう、というストーリーで大人にとっても子どもにとっても充分面白く楽しめるものであった。

The Fables of Aesop.

Caxton が行なった仕事の中で最も高く評価されているのが、Aesop 物語の伝説からの翻訳である。Aesop 物語は、すでに知られているように、その著者については、不明な点が非常に多い。一説には、前6世紀に生きていた小さくて醜いギリシャの1人の奴隷が書いたもので、それを書いたことによって彼は自由な市民となることができたと言われている。また一説には、彼は1人ではなくて複数(2~3人)だったのではないかと、とも言われている。

物語そのものについては、年代、地域ともバラエティに富んでおり、前6世紀以前、遠く古代エジプトにまでさかのぼることがができる物語もあるし、また東洋にその根元を持つ物語もある。Caxton が英訳した Aesop 物語は、ドイツで編集されたものがフランス語になおされたもので、それに Caxton は、無名の画家の木版画を挿絵としてつけている。大人のものとして発行されたが、その生き生きした挿絵やリアリティのある動物物語としてのストーリーで、子ども達を喜ばせたのである。Caxton が Aesop 物語を英訳してから後、途切れることなくひき続き出版され続け、有名・無名の画家達が、挿絵をつけることによって Aesop の世界に具体的な形を与えることになった。

Le Morte Darthur.

Arthur 王物語は、Sir Thomas Malory (約1400~1471) によって書かれた。Caxton は1485年に Malory が書いた2つの物語を1つにまとめて *Le Morte Darthur* として出版した。その結果物語は矛盾が多く、くり返しがあったりするものになった。しかし、そのことによって、多少 Malory の物語の味がそこなわれたとしても、Caxton が Malory の Arthur 王物語を埋もれさせることなく、この世に送り出したということに大きな意義があった。Caxton の Arthur 王物語は後に子どものための物語として、Howard Pyle (1853~1911) によって書きなおされ、世界の子どもの財産となったのである。Arthur 王物語の中では、華やかな中世の騎士道を背景として、Arthur や Launcelot の冒険があり、高潔な精神が

描かれ、真の勇氣や正義、そして美しい友情が、あますところなく語られている。

Caxton が出版業を始めた動機が、フランスの romance を自国の人々に紹介することになったにもかかわらず彼自身の英国に対する愛情や誇りが、Arthur 王伝説やマビノーギオンなどの、イギリスの文学の宝を掘りおこし子どもたちに与えるとともに、ルネサンスの幕開けの役割をも果たしたのである。

[2] Chapbook

Caxton 以後17世紀後半に Chapbook が出はじめるまで子どもにとっての本は、教訓を主とした、礼儀作法の本や学校の教科書に終始した。それは、挿絵がまったくないかあってもほんの少しだけの娯楽的な面はいっさい考えられていないものであった。大人のための Aesop やその他の物語は、出版されていたが、それはむずかしいラテン語で書かれており、読むためにはかなりの努力を必要とするような本であった。そのような中で、ただ1つの例外は John Amos Comenus(1592~1670 or 1671) の *Orbis Sensualiam Pictus* (original in Latin) 1657年 or 1658年、であった。(図1) ポヘミア生まれの司教の Comenus は挿絵の必要性を説きこの百科事典 *Orbis Pictus* に多くの木版の挿絵を入れた。*Orbis Pictus* が *Visible World* として英訳されたのは1658年である。その英訳本は、1ページを左右に分け、英語とラテン語で

それぞれ説明される形式をとっている。全体は153章から成り各章ごとに木版の絵や図が入っており、子どもに楽しく物事を理解させようという意図がはっきり理解できる。

a. Chapbook とは何か

Chapbook の型をとったものでもっとも古いものは1592年が記録されているが、一般に流布しはじめたのは1641年ごろとされている。子ども用には hornbook の類の他に Battledoor とよばれる遊びながら学ばせる形式のほんの少し絵の入った薄い本も出ていたが、これは、ほんの小範囲にとどまっていた。初期の段階の Chapbook は大人の娯楽のための小さな絵入り本や1枚絵で、子どもたちは、それを読んでもらったりながめたりして楽しんでいた。

Chapbook は、Chapmen とか pedlers とか呼ばれる行商人達が他の日用雑貨類といっしょに売って歩いた小冊子で、その大きさは、ほとんどは6インチ×4インチ以下のもので、半ペニーから6ペンスほどの安い価格で売られていた。ページ数は、4ページ、8ページ、12ページ、16ページ、24ページで、中には1枚の紙を折り自分で本の形にして読む形式のものもあった。長い物語であっても短い物語であっても、そのページ数の中におさまられており、あまり洗練されていない文章や挿絵のものが多く、文化・教養などから言えば質のよいものとは言えなかった。

Chapbook は行商人達によって、市や町だけではなく、人里離れた村の間にも運ばれ、文化的に孤立していた人々の手に、外の世界の新しい知識やニュースを手渡す役割を果たした。またその中に描かれていた、あらゆる種類の物語は、貧しい人々や情報が届かない地方の村の人々の心の奥にひそむ願望を満たすたった1つの読みものとして読者達に歓迎されたのである。

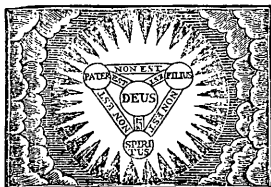
Chapbook がこの時期になぜこのように広く迎えられたかについては、神宮がまとめているものを参考にする<sup>3)</sup>。

「17世紀末から、1641年の星の間裁判廃止に象徴される言論出版の自由、内戦、共和制時代を通じて、パンフレットによる言論活動の活発化が主要な原因と考えられている。字を読むことに慣れてきた民衆は、次第に内容のあるものを求めるようになり……」また、それに加えて三宅は<sup>4)</sup>

「印刷の普及によって出版業が一つの企業として成立

( 5 )

God. II. Deus.



<p>GOD is of himself, from everlasting to everlasting. A most perfect and a most blessed Being. In his Essence Spiritual, and One. In his Personality, Three. In his Will, Holy, Just, Merciful and True. In his Power, very great. In his Goodness, very great. In his Wisdom, unsearchable. A Light inaccessible; and yet all in all. Every where, and no where.</p>	<p>Deus est ex seipso, ab aeterno in aeternum. Perfectissimum &amp; beatissimum Ens. Essentialis Spiritualis, &amp; unus. Hypostasis Trinus. Voluntatis, Sanctus, Justus, Clemens, Verax. Potentia Maximus. Bonitatis Optimus. Sapientia, immanens. Lux inaccessibilis; &amp; tamen omnia in omnibus. Ubique, &amp; nullibi.</p>
--	--

B 3 The

図 1



## Scripture Histories.



### *The Creation of the World.*



**I**N six days God created the whole world out of nothing; that is to

図 2

しはじめた」

ことも理由としてあげている。

William Thackeray, William Dacey などがロンドンの Bow Church Yard や Aldermary Church Yard に大きなおろし売りの店を持ち、Chapbook を100冊のたばにして、行商人達に手渡していた。

#### b. Chapbook の分類と種類

神宮・三宅が、それぞれの観点から分類を試みているが、両者を参考にしてまとめた。

- (1) 宗教的なもの……初期の段階に多く、数も少ない。粗雑なものが目立っていたが、後になって、はっきり子ども向けのものが出るようになった。(図2)

Fairy Tales| JACK THE GIANT KILLER



図 3

- (2) 超自然的なもの……幽霊話や占いの類の本。

“The Duke of Bucking. Father’s ham’s Ghost” “The Guildford Ghost” などが有名で、一般によく読まれた。Fortune-Teller の人相、占いなどについての本も含まれる。

- (3) 中世の romance や昔話……Chapbook の中でもっとも多くの種類と量が発行され、現在の子どもの本の基になっている。“Jack the Giant-killer” “Valentine and Orson” “Gy of Warick” “Bevis of Hampton” “Reynald the Fox” など非常に多数の読者に広く読まれ、この類の本が Chapbook の功績の中でもっとも評価されているものである。(図3)

- (4) 笑い話……(3)の昔話の類とともにもっとも広く読まれたもので、ナンセンスや風刺的なものが盛り込まれていた。“Wise Men of Gotham” “World Turned Upside Down” などがある。

- (5) 伝説……“Rodin Food” “The Blind Beqger of Bethanl Green” などで、聖人の伝記なども含まれる。

- (6) 名作のダイジェスト……“Robinson Crusoe” “Gulliver’s Traubls”, など19世紀になって子どもの本として現れたものに多い。(図4)



図 4

LITTLE Jack Jingle,  
Played truant at school,  
They made his bum tingle  
For being a fool;  
He promised no more  
Like a fool he would look  
But be a good boy and attend to his book.



図 5

(7) ABCの本やそれに類したもの……“Jack Jingle”  
“The Picture Alphabet” “The Good Child’s Illustrated Alphabet” “The Tragical Death of an Apple Pie” など多くの種類があった。(図5)

Chapbook においては、昔話の持つストーリーの単純さと明快さが、子どもたちにびったりしていて、その上に木版の挿絵が内容を補助し、生き生きとした物語を形造っていた。子どもたちは、たいくつなABCの本や行儀作法の本などには見向きもせず、大人の娯楽を目的とした、このような物語絵入り本を自分達の財産の中に加えてしまったのである。

### [3] John Newbery (1713~1763)

本当の意味ではじめて主に子ども達を楽しませることを目的とした絵入り本を出版したのは John Newbery である。そういった彼の仕事を裏付ける理由として、彼の主要作品の1つ “A Little Pretty Pocket-Book” に副題がついており “intended for Instruction and Amusement of Little Master Tommy and Pretty Miss Polly” と書かれてあることがあげられる。しかしこの ‘Amusement’ ということばについては、単に「娯楽」と訳すよりも、当時の世相から考えて、John Locke (1632~1704)などの教育論を土台とした「教育するための手段としての興味や遊び」を意味したものと解釈される。

Newberyは、子どもの立場に立った“楽しむための本”を出版したのではなく、子どもを教育する立場にある大人として、“子どもの興味を引き出し遊ばせながら学ば

せる本”を造ったと言える。

Newberyは児童文学の父と称され、イギリスの子どもの本の夜明けになった人物と評価されている。また、イギリスには、彼の名をとった世界的にもっとも権威ある児童文学賞に Newbery Medal がある。

#### a. 生涯と作品

Newberyは、パークシャーのセントローレンスで、貧しい農家の息子として生まれた。16歳になると Reading の地方新聞の発行者であった William Carnan の事務所に通き口を見つけた。Newbery は、Waltham のいなかの学校を出ただけだったが、英文学や読書が好きで、芸術から科学まですべての面での知識が豊富にあったため、Carnan の仕事の片腕になった。Newbery が24歳のとき Carnan が大部分の財産を彼に残して死に、彼はその未亡人と結婚した。

1740年には、Newbery は、新聞の発行と本の出版とでその地位を確立し、1744年、事務所をロンドンに移し、St Paul’s Churchyard に ‘Bible and Sup’ の看板を掲げた。その時に、子どもの本の歴史にとっての画期的な作品 “A Little Pretty Pocket-Book” を発行している。その直後の不況で、一時彼は破産状態になったが、再び盛り返し、Newbery は当時の有名な文人達、Dr. Johnson (1709~1789)、Oliver Goldsmith (1730~1774)、T. G. Smollett (1721~1771)、と親交を結び、事業を大きく成功させる助けとした。また Newbery は商人としての才にも恵まれており、新聞や本、雑誌だけではなく、万能薬 (Dr. Jame’s Fever Powder が有名) のパテント

を買入れて、手広く商売をした。

また、子どもが重要な商売相手であることに最初に気づき、子どもの目をひくような広告を雑誌にのせたり、売れている本がさらに売れるように、女の子用にピンクッション、男の子用にボールなど「おまけ」をつけて売ったりした。現代の「ふろく」と異なるところは、「おまけ」をつけるのは購売者の自由で、6ペンスの本に、「おまけ」がつくと8ペンスになる点である。Newberyは、本の装丁にも心を配り、色つきで金メッキがしてあり、花模様の‘Dutch Paper’とよばれる高級紙を使用したりして購売者の目を引きつけようと努力した。

Newbery が子どものための本を出版しはじめてから、1790年ごろまでに、多くのライバルが出現し、子どもの本の出版活動は非常に盛んになり、あらゆる種類の本が出版された。夏と冬のフェアでは、海の中の塩のように、床の上に沢山の子どもの本が置かれたとされている<sup>5)</sup>。

Newbery の死後、St Paul's Churchyard の会社は息子 (Francis Newbery) と Thomas Carnan (Carnan 遺児) によって継承されたが、生前、Newbery の片腕として活躍した甥 (Francis Newbery) は、2人によって会社から追われ、20番街に同名の店を出し、ライバルとなった。

20番街にある Newbery の会社は、後に John Harris へ受けつがれ、本当の意味で、‘Amusement’な絵本 ‘The Butterfly's Ball and Grasshopper's Feast’ (1807) の出版につながって行った。

#### b. Newbery の主要刊行物

子どもの本としては、全部で125冊といわれているが、作者不明のものが多く、Newberyの作品であったかどうかについて、明確な区別はつきにくい。

1744年 A Little Pretty Pocket-Book (1743 年説もある)

1745~46年 The Circle of the Sciences.

1750年 Alphabet Royal.

1753年 Lillipution Magazine.

1755年 New Testament Adapted to the Capacity of Children.

1757年 Collection of Pretty Poms.

1758年 Fables in Verse, for the Improvement of Young and old by Abraham Aesop.

1760年 Nurse Truelove's Christmas Box ; Nurse Truelove's New Year's Gift.

1762年 Millenium Hall ; Pretty Book of Pictures.

1763年 Pretty Book for Children ; Little Lottery Book.

1764年 Gold-Smith ; An History of England in Series of Letters from a Nobleman to his Son. (Zvols)

1765年 Mother Goose's Tales.

1765年 The History of Little Goody Two-Shoes.

1767年 Twelfth-Day Gift ; Whitsuntide Gift.

Newbery の仕事の中で、1744年の *A Little Pretty Pocket-Book* は、画期的な子どもの本で、はじめて子どもの興味を考えて作られた本として名高い。また1766年に出版された *Goody Two-Shoes* は、Newbery が出版した創作ものの典型的な筋の展開を示していることで、Newbery 自身の児童観・人生観が明確にあらわれている。*A Little Pretty Pocket-Book*.

この小さな本は、子どもの本の宿命としての消耗的な性格が強く、初版本が発見されていないので、発行年が1743年説や1745年説があるが、現在では1744年に雑誌にのった広告を基にして、1744年に発行されたということになっている。この本の副題から、子どもの“Amusement”を考えて出版されたことは明らかであるが、しかし、一方では、TommyとPollyがgood boyとgood girlになるために贈ります、と書いてあったり、両親や家庭教師にあてた教育に関する手紙がついており、「子どもをできるだけ健康に、かしこく、強く、徳高く、幸せにするための手引」が印されていたりして、教育的な視点から依然として脱皮していないことが明確である。

現在では、資料的な意味しか残っていないが、初版から40年後にも版を重ねており、子どもの本としては異例の Long Seller となった。

The History of Little Goody Two-Shoes (図6)



*Little Goody Two-Shoes.*

#### THE HISTORY OF

LITTLE GOODY TWO-SHOES;

Otherwise called,

Mrs. MARGERY TWO-SHOES.

WITH

The Means by which she acquired her

Learning and Wisdom, and in consequence

thereof her Estate; set forth

at large for the Benefit of those,

Who from a State of Rags and Grief,

Are brought down to half a Penny;

They Parture and then—From rags and Grief,

Are set up in a Coach and Six.

See the Original Manuscript in the Vatican

at Rome, and the Cures by Michael Angelo.

Illustrated with the Comments of our

great modern Critics.

THE THIRD EDITION.

L. O. N. D. O. N.

Printed for J. NEWBERY, at the Bible and

Sun in St. Paul's Church-Yard, 1766.

[Price Six-pence.]

この本のカットはその当時の有名な木版師、Tomas Bewick (1753~1828) の作品とされ、Newbery の作品の中でも魅力ある作品の1つとなった。物語自体は、他の創作物語と同じ、保守的な人生観から出た立身出世物語の域を少しも出ていないが、明るくユーモラスな挿絵がその主人公の魅力を増し、子どもたちを引きつける重大な要因となった。

### ま と め

18世紀後半まで、子ども時代は大人になるための準備期間と考えられており、子ども独自の文化を持つことなど考えられもしなかった。そのことから、子どものための印刷物は子どもの興味を全く無視した行儀作法や教科書的なものであって、挿絵など入らない面白味のないものに終始した。

そこで子ども達は、自分の興味と関心を、大人用に刷られた物語や廉価本に向け、それらを共有することによって満足を得ていた。

16世紀、イギリスで最初の印刷業者であった Caxton の時代はむろん、17世紀後半上流階級のものであった活字文化を一般大衆に広げた Chapbook の初期の時代までそうであった。

しかし、産業革命を経て、印刷技術が進歩し、出版業が社会的に重要な部分をしめるようになると、教育観の変化もともなって、子どもの本の内容も大きな変化へと向かった。

18世紀の後半、Newbery の A Little Pretty Pocket-Book は、古い時代の子どもの観を内包しながらも、子どもの存在を意識しユーモラスな挿絵によって、子どもの興味を引き出すような努力を払ったことで、児童文学の夜明けとなったと評価される。

謝 辞

本研究をまとめるにあたって、児童文化研究室・中地万里子助教授に御指導をいただきましたことを感謝いたします。また資料の日本語訳にあたっては、藤原洋子さんに助言をいただいたことも合わせて感謝いたします。

### 引用文献

- 1) 高杉一郎：英米児童文学・中共出版・1977、p. 3 ~p. 18
- 2) 三宅興子：日本保育学会第33回大会研究論文集・西南女学院短期大学・1980、p. 272
- 3) 神高輝夫：英米児童文学史・研究社、1971 p. 88.
- 4) 三宅興子：注2) 同
- 5) Eric Quayle ; The collector's Book of children's Books. Studio Vista. 1947. p. 24

### 参考文献

- Darton, F. J. Harvey : Children's Books in England (Cambridge Univ. Press, London, 1970)
- Egoff, S., Stubbs, G. T. & Ashley, L. F. (eds.) : Only Connect : Reading on Children's Literature (Oxford Univ. Press, New York, 1969)
- Ellis, Alec : How to Find Out about Children's Literature (Pergamon Press, Oxford, 1973 third edition)
- Meigs, Cornelia and Others : Critical History of Children's Literature (Macmillan, New York, 1953)
- Eric Quayle ; The Collector's Book of Children's Books. (Studio Vista, London, 1971)
- Arbuthnot, May Hill and Others : Children and Books (Scott,Foreman and Company, London 1947 Forth edition)
- Arnold Arnold, Pictures and Stories from Forgotten Children's Books. (Dover, New York, 1969)